

使徒 2 章的なコングリゲーション

2010 年 5 月 2 日 アシェル・イントレーター

私たちはエルサレムにあるアハヴァット・イエシュアという私たちのコングリゲーションに関する会議を終えたところです。私たちは週末をキブツ・ナフシヨリームで過ごし、関係の強化や使徒 2 章的な共同体としてのビジョンを再確認しました。初期のコングリゲーション(注)のいくつかの側面について見ていきましょう。

訳者注: 初代教会という表現は使わず、初期のコングリゲーションという言い方で統一しています。西洋的キリスト教会をイメージすることを防ぐためです。

1. **エルサレム** - 彼らはエルサレムで集まっていました。最初が最後になるのです。終わりの時の、イエシュアがエルサレムに再臨されるのが近づいている時、エルサレムでメシアニックジューの共同体が再構築されるのは神のご計画の一部です。使徒 2 章の原則は世界中どこであっても適用できますが、エルサレムという場所は戦略的、聖書的な重要性を有しています(マタイ 23:37-39、イザヤ 2:1-4、ヨエル 12:32)。
2. **聖霊** - コングリゲーションが始まったのは、ある一群が聖霊に満たされるという経験からでした。この出来事は神が人類に対する行いに転換点をもたらしたのです。創造より前から、神はご自身の霊をある一群の人々の中に住まわせることを意図されていました。神の理想はその時最初の成就を果たしたのです。
3. **力の経験** - 彼らは聖霊を受けただけでなく、火による洗礼を受けたのです。彼らは異言で語り、教え、賛美、そして預言をし始めました。その経験なくしてコングリゲーションは存在しなかったでしょう。しかし、彼らは周りにいる人々にとって幾分「奇妙」に見えましたが、彼らは、天から力を受けるようにというイエシュアの指示に従ったのです。
4. **ペンテコステ (シャヴオット)** - 真の信者はいつでも聖霊を受けることができますが、最初の注ぎはある特定の条件下で起こりました。聖なる日であるシャヴオット(週の祭り)は「約束の時」でした。私たちは聖書の祭りをリバイバル、伝道、そして預言を教える機会として祝っています。
5. **ユダヤの伝統とのバランス** - どれぐらいユダヤの伝統を私たちのコングリゲーションに取り入れていくべきか、メシアニックジューの間で熱く議論されている課題です。完全取り入れる、あるいはまったく反対にというふうには人々は両極端に走りがちです。しかし、聖書的な新契約(新約聖書)の視点は、バランスの一点にあります。初期の使徒たちは私たちの民の文化の中で暮らしていましたが、すべてのラビ的規定に従っていたわけではありませんでした(使徒 4:19, 15:10, 21:20; ローマ 11:28)。
6. **大胆な伝道** - シモン(ペテロ)と他の弟子たちはイエシュアの十字架と復活についてためらいなく伝道しました。ここイスラエルではイエシュアの名を宣言する霊的な抵抗がありますが、

主は常に私たちのメッセージの中核です。「**ナザレのイエシュア**」(2:22)、「**あなたがたが十字架に架けたイエシュア**」(2:36)、「**イエシュアの御名によって**」(2:38)。

7. **世界ビジョン** - 初期の弟子たちは彼らのメッセージこそ世界宣教の始まりと(使徒 1:8)、そして、聖霊に関する経験こそ終わりの時に成就する世界的なリバイバルの始まりだと捉えていました(使徒 2:17)。私たちはそのビジョンを共有し、イスラエルのメシアニックジューの共同体がリバイバルに火を付け、諸国にいる信者の伝道の励みとなることを期待しています。
8. **ヘブライ語** - 使徒たちは自分の民に、同胞の一員として呼びかけました(使徒 2:14, 22, 29)。使徒たちは彼らにヘブライ語で話しかけました(使徒 6:1, 21:40, 22:2, 26:14)。私たちの賛美、教え、そして共同体の活動はヘブライ語で行われています。ヘブライ語はイスラエル国家と同様 2000 年ほど前に消えましたが、復活しました。ヘブライ語の復活はイエシュアの復活と対を成しています。ヘブライ語での福音はここではよく喜んで受け入れられています。母国語を使用することと、若い指導者を訓練することは、どの国においても植民地的な布教活動から使徒的な突破口への変遷を示しています。
9. **地元の中核と移民** - イスラエルは移民国家です。イスラエルの信者のほとんどはまだ移民です。しかし、それが変わろうとしています。使徒 2 章のコングリゲーションは中核となる 120 人の地元の弟子たちによって始められました。その彼らに大半が移民の 3,000 人が新しい一団として加えられました。「さて、エルサレムには、敬虔なユダヤ人たちが、天下のあらゆる国から来て住んでいたが」(使徒 2:5)。彼らの共同体では大半は移民でしたが地元の弟子たちが指導層の中核を成していました。
10. **共同体の生活** - 初期の弟子たちは完全なパートナーシップの元共同生活を送っていました。彼らは物質的にも霊的にも、所有物を共有していました。彼らは集会に「出席」したのではなく、「共同体に参加」していたのです。彼らの関係は集会を超えたものでした。彼らは互いを家族として見なしていました(ヨハネ 19:26-27、マルコ 3:33-35)。
11. **契約的關係** - そのような共有生活というレベルに達するために、初期の弟子たちは契約、忠誠心、そして誠実さという原則で生活しました。彼らは信頼を築き上げる方法、互いにコミュニケーションを取り、愛を持って罪を指摘し、権威に従い、長期に渡る関係を維持することを知っていました。
12. **大小の集会** - 大きな集会あるいは小さな集会で会合をひらくか、現在議論が交わされていますが、初期の信者たちは両方を行っていました(使徒 1:15; 2:1, 41, 46)。大きな集会にはダイナミックな力の発現がありましたが、小さな集会には緊密な関係、そして信頼関係を築くことができます。
13. **超自然的な献金** - 初期の弟子たちは大胆に献金し、時には自分の所有財産までも売り払いました。最初の段階は、仲間たちが借金することがないように助けました。第二段階は使徒たちの指導の元、世界ビジョンを促進するためでした。彼らは文字通り「使徒たちの足もとに置き、その金は必要に従っておのおのに分け与えられたからである」(使徒 Acts 4:35,

37, 5:2)を行いました。この超自然的で惜しみない献金は供給されることを証明するものであり、自分の欲望や満足のためではなく、神の御国のために表されたものでした。

14. **使徒的な指導** - 初期の信仰共同体は牧師によって導かれたのではなく、五役者と呼ばれる人々、使徒、預言者、伝道師、牧師、そして教師によって導かれました(使徒 1:11; 2:42; 4:36; 5:18, 29; 8:14; 11:1; 13:1; 14:14; 15:6; 15:32; 16:4; 20:28; 21:8; 21:9; エペソ 4:11)。これらの指導層が多様であることによって、神の御国が多次元な成長をすることを可能にしました。
-

祈りの要望

1. この使徒 2 章のビジョンがアハヴァット・イエシュアや、すべてのメシアニック・コングリゲーションで成就しますように。
2. 伝統的ユダヤ人家庭出身で、サブラ(訳注:イスラエル生まれのイスラエル育ち)である新しい信者「R」さんのためにお祈り下さい。この人は新生体験をし、水の洗礼を受け、そして先週末聖霊に満たされました。
3. イスラエル全土において、継続して伝道と弟子訓練において突破口が開かれることをお祈り下さい。